

大型クラゲ被害防止対策緊急調査

島崎裕紀・江口勝久

近年、エチゼンクラゲ（*Nemopilema nomurai*）等の大型クラゲが、日本海沿岸域に大量に出現し、定置網・底曳網などに入網することにより、漁具の破損や漁獲物の品質低下、操業の停止等、沿岸漁業に大きな被害を与えている。このため、佐賀県玄海海域および対馬東水道における大型クラゲの出現状況等について調査および情報収集を実施した。なお、本調査の一部は、一般社団法人漁業情報サービスセンター（以下、漁業情報サービスセンターとする）からの委託により実施した。

方 法

大型クラゲの出現状況等については、海上調査として船上からの目視調査、陸上調査として漁業者からの情報収集を行った。

1. 海上調査および陸上調査

海上調査は、令和3年6月～令和4年3月まで、毎月上旬に実施している沿岸定線観測調査（壱岐水道および対馬東水道）等で14回実施した。調査は、調査船の両舷からの目視により行った。

陸上調査は、令和3年7～11月にかけて関係漁協を通じて漁業者から大型クラゲの目撃・入網状況等を毎週収集し、集計・整理した。関係漁協と対象漁業種類は、佐賀玄海漁協唐津市統括支所（小型底曳網、ごち網）、同高島支所（定置網、小型底曳網）、同神集島支所（定置網、小型底曳網）、同鎮西町統括支所（定置網）、同加唐島支所（刺網、一本釣）、同馬渡島支所（刺網）、屋形石漁協（定置網）である。これらの情報については、逐次漁業情報サービスセンターへ送付した。

2. 情報収集および漁協等への提供

漁協等へ提供する情報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構、韓国国立水産科学院等のHPから収集した。

結 果

1. 海上調査および陸上調査

本年度の海上調査および陸上調査において大型クラゲは確認されず、漁業被害の発生はなかった。

2. 情報提供および漁協等への提供

今年度は、本県玄海海域において大型クラゲの目撃情報が少なかったことから、FAXなどによる関係機関に対する注意喚起は行っていない。